

令和6年度 第1回都島区議会での意見と対応一覧

	意見内容	委員名	当日の回答	今後の対応	担当
1	1-1 防災のまちづくりについて、大東地域で地域一斉の防災訓練を行った際に若い人が少ないと感じた。高齢者の方々からも、災害が起きたときに若い人が助けに来てくれないと本当に助かるかどうか不安だという声を聞いた。地域の特性もあると思うが、地域一斉の防災訓練には限界があると感じる。例えば、若い人向けや学生向けに年代層を分けて出前講座や訓練を行うことで、防災意識が向上するのではないかと。災害の備えができていないと回答した人がまだ6割という現状を考えると、これをさらに上げるためには若い世代に防災リーダーになってもらうことが重要だと思う。区の発信でしっかりと施策を進めてほしい。	藪上委員	防災訓練に若い人が少ないという問題、ご高齢の方々の不安も認識しています。部会でも地域防災の担い手について議論され、区としても若い人や学生向けの防災教育を進める必要があると考えています。今年11月に桜宮中学校が防災授業を行い、地域防災リーダーや地域振興会と協力して、中学生に防災の基本を教える予定です。これが将来の防災リーダーの育成につながればと中学校も抱負を語っておられました。地道に取り組んでいきたいと思っておりますので、地域の皆さんからもご意見を賜りたいと思っております。	(当日回答のとおり)	防災地域活性
2	1-1 防災のまちづくりについて、東都島地区では、中学校での防災授業や小学校での防災授業を通じて、子どもたちを防災の担い手として育成している。しかし、中学生でも力が足りず、可搬式ポンプの操作が難しいこともある。区としても住之江区の中学生防災士のような取り組みを進めてほしい。 東都島地区の町会に加入されている方は、子ども食堂2か所とも無料で提供するなどの取り組みを行っている。町会に入ったら得するイベントを増やしていきたい。	江川委員	様々なアイデアをいただきありがとうございます。地域とも協力して防災の取り組みを進めていきたいと思っております。	(当日回答のとおり)	防災地域活性 市民協働
3	2-2の「いきいきと健康に暮らせる福祉のまちづくり」のアウトカム指標について、地域の見守り活動があることによって安心して暮らし続けられるというアンケートの設問について、地域の見守り活動が具体的に何を指しているのかが分からないと感じた。アンケートの回答者がその活動を意識できないと、安心して暮らし続けられるという回答につながらないのではないかと。地域福祉コーディネーターの活動をもっとPRする必要があると思う。	下影委員	設問の「地域の見守り活動」が何を指すのかわからないとご指摘いただきました。次回アンケートでは、それが何を示すのか、よくわかるような形で例示するなど工夫をしていきたい。	(当日回答のとおり)	政策企画
4	2-1 コミュニティ豊かなまちづくりについて、広報みやこじまやSNSによる啓発が地域活動への理解促進に有効と感じる区民の割合が60%に達していないことだが、今後の取組として、情報発信だけでなく、区民がほしいときにほしい情報を探しやすい工夫も必要だと思う。情報を受け取る側が探しやすいような仕組みを考えていただきたい。	山野委員	情報発信だけでなく、受け手側がほしい情報を探しやすい仕組みについても検討していきたいと思っております。具体的な方法については、内部で議論し、順次取り組んでいきたいと思っております。	情報を取りたいときに取りやすいような仕組みも大事です。ホームページなどを改善し、情報が行き渡りやすくなるように考えていきたいと思っております。	市民協働 政策企画
5	2-2のアウトカム指標「地域の見守り活動があることによって、安心して暮らし続けられると思う割合が低いのは、一般の人も含めてアンケートを取っているからではないか。実際に見守り活動に参加している人であれば、もっと高い数字が出ると思う。例えば、育児に関するアンケートでは参加者に対して取っているため100%という結果が出ている。一般の人も含めて取る必要があるのか疑問に思う。	菱池委員	アンケートの取り方について、何が適切かを考え、質問項目を整理していきたいと思っております。安心して暮らし続けることができるまちを問うのか、コーディネーター事業自体を問うのか、いろいろな考えがあると思っておりますので、そのあたりを整理して、適切な質問項目を考えていきたいと思っております。	(当日回答のとおり)	保健福祉

令和6年度 第1回都島区区政会議での意見と対応一覧

	意見内容	委員名	当日の回答	今後の対応	担当
6	<p>・区民アンケートの世代バランス・男女バランスはどうなっているのか。</p> <p>・地域の見守り活動に関しては、30代や40代の人々は見守りがなくても生きていけると感じる人が多いと思う。70%という目標は無理があるのではないか。利用者は100%安心して思うが、それ以外の方に対してこの目標は難しいと思う。無作為でアンケートを取る中でも、答える人と答えない人がいるため、もっと多くの意見を取り入れられるアンケートの方法があればいいと思う。</p>	西委員	<p>・都島区では、区民アンケート年2回、1500人を無作為抽出し実施しています。少し若年層の回答率は低いですがおおむね区の傾向がわかるようになってます。</p> <p>・アンケートは全員から回答をいただくのがベストですが、費用の問題もあり、1,500名を無作為抽出しています。オンライン回答や設問数の厳選など、回答しやすい工夫をしていますが、さらに改善していきたいと思ひます。</p> <p>・アウトカムの指標は、将来ビジョンとして目標を設定したので変更できません。令和5年度は中間年にあたります。次に設定する際は、勘案して目標設定していきたいと考えております。</p>	(当日回答のとおり)	政策企画
7	<p>私はメディア発信重視型まちづくりの一般社団法人で副理事長をしており、SNSの投稿を通じて都島区の情報発信している。</p> <p>基本的な使い方として、フェイスブックはアーカイブ、一次情報はX(旧Twitter)、ユーチューブのショート動画をTikTokに上げるなどの方法がある。これを活用すればアウトカムは上がると思う。協力が必要ならいつでも言ってください。</p>	江川委員	<p>SNS発信の効果的な方法についても検討し、拡散をいかに図るか、ご協力をお願いなど検討してまいります。</p>	(当日回答のとおり)	政策企画
8	<p>3-1 魅力あるまちづくりについて、プロセスの指標として「桜ノ宮ビーチに行ったことがある」という項目が設定されているが、目標達成はできていない。しかし、アウトカム指標である「魅力を感じると回答した区民の割合」は95%に達している。桜ノ宮ビーチに特にこだわる必要はないのではないか。水辺のにぎわいづくりという観点から、例えばみやこじまリバーフェスなど、他のイベントや大川全体を対象にする方が良いのではないかとと思う。大川は桜が美しく、非常に魅力的な場所。都島区の魅力をもっと広範囲に感じてもらうために、ポイントだけでなく大川全体を盛り上げることに注力していただきたい。</p>	荻上委員	<p>桜ノ宮ビーチにこだわった理由は、まちなかであれほどきれいな人工ビーチがないということ、それが都島区の売りになると考えたからです。委員のご指摘の通り、リバーフェスや大川全体、さらには淀川も含めた水辺の魅力やにぎわいづくりを広範囲で考えるべきだと思います。今後は桜ノ宮ビーチにこだわらず、広範囲での取組を考え、アンケートもそのように拡大して取るように検討していきたいと思ひます。</p>	(当日回答のとおり)	政策企画
9	<p>3-2 都島の未来を担う人材育成について、将来の夢や目標を持っていると回答する児童・生徒の割合が73%となっている。私も小学校のPTA会長を務めており、学校協議会などでこの話を聞くことがある。目標を向上させるため、都島区にある多くの企業、例えば、京橋にはNTT西日本、北の方にはサイクルベースあさひなどこれらの企業と連携し、出前授業や職業体験を行うことで、児童・生徒が身近な職業に触れる機会を増やすことができると思う。これにより、将来の夢や目標を持つ児童・生徒の割合が増えるのではないかと。将来の夢や目標は、大谷選手のようになりたい、オリンピック選手になりたいだけではない。区として企業連携を推進していただきたい。</p>	荻上委員	<p>都島区の小中学校では、職業講話や職場見学、職場体験をカリキュラムに組み込んでいます。ソフトバンクなどの企業と連携し、出前授業を行うなどの取り組みを進めていますが、児童・生徒の数に対してまだ十分ではありません。学校と協力し、企業との連携をさらに進めていきたいと思ひます。</p>	(当日回答のとおり)	子ども教育

令和6年度 第1回都島区区政会議での意見と対応一覧

	意見内容	委員名	当日の回答	今後の対応	担当
10	3-1 魅力あるまちづくりについて、北側のエリアに住んでいる人たちは桜ノ宮ビーチに行く機会が少ない、淀川でスポーツをする方が多い。桜ノ宮ビーチにこだわるのではなく、大川全体や淀川も含めた都島区の魅力を広く発信していただきたい。大川沿いで区民まつりや観光客が集まる桜の時期など、都島区が一番の魅力にできる部分だと思う。大川は都島区と北区、少し中央区につながる、区同士の連携も含めて、取り組んでいただきたい。	藪上委員	(回答なし)	桜ノ宮ビーチは、大阪市内で唯一の人工の砂浜であることから、利活用の促進を図り、区の魅力としての発信にも注力してまいりました。今後は、淀川流域や大川流域全体も含めた広い範囲を対象とし、可能な限り隣接区とも連携して水辺のにぎわいづくりに取り組み、その魅力を発信するよう努めてまいります。	政策企画
11	3-2の未来の都島を担う人材育成のアウトカム指標について、児童・生徒が将来の夢や目標を持っていることを区の人材育成の指標にするのは難しいのではないかと思います。区の運営方針以外にも将来の夢や目標に関わる部分が多々あるため、これだけで指標とするのは適切ではないのではないかと。違う指標にした方が、区の運営方針の評価としては良いのではないかと。	山野委員	区役所も学校教育に関する施策を行っていますが、学校教育に関する施策全体から見れば、ごく一部にとどまります。そのため、アウトカム指標として広く生徒を対象にして数字で評価するのが適切かどうかは確かに難しい部分があります。すぐに変えるのは難しいかもしれませんが、ご意見を参考にし、今後のあり方を検討していきたいと思っております。	(当日回答のとおり)	こども教育
12	3-1 魅力あるまちづくりの桜ノ宮ビーチについて、今日雨だったので川べりを走ってきた。橋の下などに水たまりが多く、自転車で走るとばしゃばしゃと水が跳ねた。歩いている方々も端っこを濡れないように歩いているのを見かけた。桜ノ宮ビーチや大川沿いを魅力あるまちにしたいのであれば、道をもっときれいに整備する必要があると思う。また、桜ノ宮ビーチでビーチバレーをしている方々がいが、水道施設しかない。もっと活用してもらうためにはシャワーなどの設備も必要ではないか。	尾柳委員	大川沿いの道路の状況については、建設局など関係部署に改善の要請をしていきたいと思っております。 桜ノ宮ビーチの活性化のためには、シャワーなどの設備も必要だというご意見をいただきましたので、そういった設備の整備も含めて検討していきたいと思っております。 管理自体は大阪府の所管ですので、区役所には特段の権限はありませんが府に要請することは可能です。現在もビーチのにぎわいづくりについて府と連携して進めていますので、引き続き関係部署に要請していきたいと思っております。	(当日回答のとおり)	政策企画
13	3-2の未来の都島を担う人材育成のアウトカム指標について、子どもに「あなたは大人になっても都島で働いて住んでいきたいですか」というような聞き方をすれば、子どもがイエスと答えるなら、本当に未来の都島を担う人材として残っていくのではないかと。聞き方次第で結果が変わると思うので、そういう聞き方を通じて子どもたちが都島を担う人材になるかどうかを見ていく方が良いのではないかと。	下影委員	指標については、全国学力・学習状況調査を使っていますが、委員のご意見を参考に、別途調査できる機会があれば、質問項目を工夫していきたいと思っております。ただ、別途調査を行うためには費用もかかりますので、その点もご理解いただければと思います。	(当日回答のとおり)	こども教育
14	3-1の魅力あるまちづくりについて、都島リバーフェスが雨天中止になってから全くSNSでの発信がなくなった。水辺を有効活用するためには、リバーフェスは人を集めるための有効な機会だと思う。中止になっても「リバーフェスができます」「スポーツができます」といった発信は続けるべきではないか。	谷委員	確かにイベント開催前には大々的にアピールしていましたが、日々の発信はしていませんでした。日々の発信や魅力を感じていただけるような取り組みを考えていきたいと思っております	(当日回答のとおり)	政策企画

令和6年度 第1回都島区区政会議での意見と対応一覧

	意見内容	委員名	当日の回答	今後の対応	担当
15	私は長いこと防災リーダーや災害救助部長を務めてきた。小学校の防災授業で火をおこすコンロの組立て方や簡易ベッドの作り方などを教えている。しかし、災害が起こったときに避難してくる人のことを第一に考える必要がある。避難所での部屋作りなども大変だと思う。消火訓練などもどんどん進めていけばいいと思う。	多田委員	小学生の防災授業などの取り組みについても、実働的に進めていきたいと思っています。桜宮中学校や淀川中学校でも防災訓練を行う予定です。地域の皆さんと協力し、実働的な防災力アップに向けて取り組んでいきますので、知恵を貸していただければと思います。	(当日回答のとおり)	防災地域活性
16	区役所が素晴らしいイベントや情報を発信してくれているが、残念ながら見ている人が少ない。例えば、広報誌に自分の町会のこと掲載されていてもほとんどの人が見ていないという状況。回覧板も同様で、急いでいるときは判子を押して次に回すだけになっている。 せつかくの情報を見てもらえるようにするためには、何か工夫が必要だと思う。例えば、都島大使のようなアイドルや有名人が発信することで、若い人も見るようになるのではないかと。都島が生んだアイドルや漫才師などを活用して、情報を発信することで、都島だよりや回覧板、SNSの閲覧数が増えるのではないかと。広報誌や回覧板をしっかり見れば情報が載っていたはず、何とかして情報を見もらう工夫が必要だと思います。	浦出委員	発信した情報をいかに見ってもらうかは非常に重要な課題です。これまでも工夫してきましたが、さらに見てもらえるような新たな工夫が必要だと思います。また、情報を取りたいときに取りやすいような仕組みも大事です。ホームページなどを改善し、情報が行き渡りやすくするように考えていきたいと思いません。	(当日回答のとおり)	政策企画
17	商店街について、商店街のトラブルはほとんどない。18台のカメラで1か月間録画しており、何かあれば都島警察がビデオを見て解決している。ただ、自転車の問題はどうしようもない。狭い商店街で電動自転車が増え、事故はないものの、いずれ大変なことにならないかと心配している。また、駐輪場の問題もあります。駐輪場を作っても、店の前に自転車を置く人が多い。商店街としても徹底的に撤去するとお客さんが減るのではないかと心配している。今のところは貼り紙をするなどして対応しているが、完全な解決策は見つかっていない。	岡本委員	自転車の問題についてですが、駐輪場が近い場所に止めたい、遠い場所には止めないという心理があります。駐輪場の所管である建設局ともこの問題を共有しており、できるだけ止めてもらえるように駐輪場を設置するよう取り組んでいます。料金の設定などで優劣をつけるなどの工夫もしていますが、根本的な解決には至っていません。商店街の皆さんと協力しながら、引き続き取り組んでいきたいと思っています。	(当日回答のとおり)	防災地域活性